

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2023年3月16日

学部・学科名 世界共生学部 世界共生学科

担当教員氏名 マルソ エティエン

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	春季オーストラリア研修
3. 渡航先国名	オーストラリア
4. 派遣期間	2023年 2月 3日 (金) ~ 2023年 3月 5日 (日) 31日間
5. 派遣先教育機関名	グリフィス大学
6. 参加学生数	24名
7. 派遣目的 purpose	Providing the students with an opportunity to improve their language skills in an English-speaking country through classes at a local university during the first two weeks. Living with an Australian family and experiencing cultural differences first hand for an entire month. Experiencing work in an Australian company through an internship program during the last two weeks.
8. 派遣内容 content	Students take English classes at the local university for the first two weeks, followed by a two-week internship program in an Australian company. Both the classes and the internship are connected to their field of studies in this department. Excursions such as a trip to a koala sanctuary where students can see and learn about Australia's fauna and local environmental issues add a meaningful yet enjoyable local experience to their trip.

<p>9. 成果 result, outcome, accomplishment</p>	<p>Students seem to have learned and reflected during English classes, which they said were enjoyable. Students seem to have become more active and willing to communicate in English. All conversations between the students and me also took place in English, at the students' initiative. The internship provided them with a meaningful work experience in a different country with different ways of working in companies that have close links to the society. It also was an opportunity to deepen their understanding of diversity. This will surely prove beneficial in their development as global human resources.</p>
<p>10. 備考 remarks</p>	

以上

私はオーストラリア海外研修に参加し、目標として掲げていた、積極的なコミュニケーションをすることを達成できたと感じています。達成できたと感じる理由を、3つ述べたいと思います。

一つ目は、家の中で常に会話ができる環境に身を置くことができたからです。私のホストファミリーは、ホストマザー一人の家庭で、常に会話ができる状態でした。初日は緊張もあってホストマザーの質問に答えるだけの会話ばかりでしたが、日本とオーストラリアの違いを見つけ、それをホストマザーと共有することで会話を広げられることに気づき、授業の内容や、授業後の話、お互いの趣味など、通学前や帰宅後、移動中の車内で積極的に話すようになりました。また、テレビ番組や会話の中で聞き取ることができなかつた単語や知らない単語に出会ったとき、自分で調べることが自分の力になると思っていましたが、ホストマザーに質問することで新たな会話が生まれると同時に、そのときの会話と共に単語をインプットできることに気づきました。私が常にホストマザーと会話できたことは環境のおかげである部分が大いかもしれませんが、緊張や英語力を言い訳にせず、話し続けることに挑戦できたことが、目標達成に繋がったと思います。

二つ目は、授業後は毎日寄り道をしていたからです。ホストマザーとの会話だけでは積極性は身につかないと思い、授業後はカフェやショッピングセンター、公園などに通い、3人と会話できるまで帰らないようにしていました。最初の一週間は自分の英語力の低さに対して恥ずかしく感じ、店員、バスの運転手、近所のおじいさんにしか話しかけることができませんでした。しかし、授業内で small talk について学び、実践するようになると、会話が楽しくなり、3人以上の人と会話ができる日もありました。この経験から、恥ずかしいからと様子をうかがうのではなく、小さな事からでも挑戦してみることで積極的になるために必要だと思いました。

三つ目は、わからないことを繰り返し質問することは悪いことではないと気づいたからです。二週間の work experience では child care center で働きました。先生方や子どもたちの名前を覚えることは簡単ではなく、早く覚えなければ失礼に当たるを思い、名札や呼ばれ方を頼りに必死に覚えようとしていました。しかし、先生方や教室の子どもたちは何度も私の名前を尋ねてくれました。このことから、わからないことは繰り返し質問しても良いことを学びました。そして、相手の名前を呼ぶことは会話のきっかけになったり、会話を盛り上げたりしているのではないかと思いました。

今回参加したオーストラリア海外研修は、言いたいことが言えない、伝わらない悔しさや、日本とは違う事柄を発見する楽しさ、自分が所属するコミュニティとは異なる集団の発見など、多くの気づきを得られた一ヶ月でした。この研修で経験したことを無駄にすることがないように、より真剣に英語習得に取り組むと共に、今後の自分の進路について考えたいと思います。

オーストラリア研修を通して

今回のオーストラリア研修は私にとって初めての海外でした。すべてが新鮮でたくさんの学びがあったと同時に日本について改めて考えるそんな一か月でした。正直自分の語学力に自信があるわけではなかったので最後まで参加を悩んでいたし、行くことを決めた後も不安ばかりでした。現地についてからホストファミリーと対面しそのまま週末だったので月曜日まで友達や同じ学部仲間たちに会えない状況に少し焦ったのを覚えています。ホストファミリーが積極的に話しかけてくれて自分の拙い英語もしっかり聞いてくれて、時には文法を直してくれたり発音の練習に付き合ってくれたりととても親切なファミリーのおかげで少しずつ自分からも話せるようになっていきました。また、大学ではオーストラリアの先住民のアボリジニやオーストラリア特有の動物について学びました。授業はすべて英語で行われ、家に帰っても英語の生活だったのでスピーキングとリスニングの機会が多く、日本だと機会が少ないために持っていたスピーキングとリスニングの苦手意識がなくなっていました。大学の日本サークルの方と交流する機会もあってそこには現地の人はもちろん日本人の方もいてオーストラリアにいる経緯や留学についてなども聞くことができ、すごくためになる時間でした。週末の過ごし方は自由だったのでホストファミリーと海に行ったりサイクリングしたり、おすすめてもらった場所に友達と行ってみたいりして過ごしていました。はじめは緊張して上手くできず想定外のことを尋ねられると戸惑ってしまっていた注文なども帰国のころには周りの他のお客さんやホストファミリーを見て学んだおかげで注文以外にスタッフの人と少しお話できる心の余裕が持てるようになりました。

今の時代、現地に赴かなくても言語や文化を学ぶことはできると思います。しかし私はこのオーストラリア研修に参加して、新たな価値観を持つことができたりするなど自分自身にとっていいことしかなかったです。私のホストファミリーはビーガンの家庭だったので日本にいたらビーガンについて触れることはなかったと思うし、ビーガンの料理の奥深さについて学ぶこともなかったと思います。自分の足で赴いて現地の文化や人々に触れることでしか学べないこともたくさんあることを今回の研修で身をもって感じることができました。一か月という長いようで短い期間のなかで日本のことについてもホストファミリーと話しながら新たな視点や外国から見た日本についても学ぶことができ興味深かったです。私の人生において一番短く充実した一か月でした。今回の研修を通して知らない世界に飛び込んでみる、不安があっても一歩踏み出して文化や価値観に実際に触れてみることの大切さを学ぶことができました。まだまだ知らない世界はあるのでいろんな国に行きたいと思うと同時に、英語の勉強をこれからより一層頑張って正規の留学でオーストラリアに戻りたいという二つの目標ができました。この二つの目標を実現できるようにこれからの学生生活も頑張っていきたいと思います。

最後になりますが、この研修を実現するためにたくさん準備して下さり、現地でもたくさん支えてくれた先生方、事務の方々、すべての方々に感謝しています。

今回 2 月からの 1 か月間オーストラリアに研修をしに行った。主な内容としては 2 つに分かれ、前半の 2 週間は大学に通い、英語を学び後半の 2 週間でワークエクスペリエンスを行った。そして最後には前半で学んだことを生かして、ワークエクスペリエンスの経験をもとにプレゼンテーションを行う。私自身 1 か月の海外研修は初めてで、はじめはとても心配だったが結果的に私の人生の中でかけがえのない経験となった。まず初めの 2 週間は大学に通い授業を受けた。ここではオーストラリアならではの発音や言葉をじかに学ぶことができた。授業の内容としては最終に行うプレゼンテーションで気を付けるべきことや、オーストラリアの先住民族であるアボリジニの話、オーストラリアの有名な場所や動物たち、後半の 2 週間でやるワークエクスペリエンスで役立つ会話の始め方など、1 か月間で短期間に役立つ内容であった。クラスは 2 つに分かれて行い現地の学生はクラスにはいないため大学の授業と変わらないかもしれないが、学ぶ内容はオーストラリアに沿ったものであったため、文化や歴史など通常の大学の授業では学べないことを学ぶことができる。後半のワークエクスペリエンスでは私はチャイルドケアに行き、主に先生のお手伝いや子供たちのお世話をしたりした。慣れない環境での現地との子供とのコミュニケーションはとても難しかった。一番苦労したのはコミュニケーションの部分で先生が私に話しかけるとき英語で子供たちに話す流れで私に話しかけるため自分の脳が追いつかない時があったことである。このことは 2 週間を経てだんだんと耳が慣れてきて先生が急に話しかけてきても対応できるようになっていったと感じる。そしていままで忘れていた初歩的な英語をもう一度学びなおすことができた。その理由として子供たちに話す言葉は初歩的で簡易的なものが多いため、自分たちの会話で普段使わないような言葉が飛び交っていたため初心に戻って英語を学ぶことができた。私がこのオーストラリア研修で一番身につけたことは、ポジティブ精神である。オーストラリアに着いて初めのころはホームステイ先の食が自分の口に合わなかったり精神的に追い込まれた部分があった。その時に自分を立て直すことができたのは考え方をポジティブな方向にもっていくことだった。このポジティブ思考は自分が落ち込んだ時だけでなく、海外で生活するにあたってどんなことでも挑戦してみようと考えられることにも役立つ。ホームステイははじめましてから急に同じ家に住むことになり環境の変化に最初は慣れるのが大変だと思うが、わからないことは積極的にホストファミリーに尋ね、自らコミュニケーションをとることが大切だと感じた。どんな些細なことでも今日あったことやしたことなどをホストファミリーに話すだけでも良好な関係を築くことができるし、たった 1 か月だったが、このホストファミリーでよかったと思うことができる。ホストファミリーによって生活スタイルは様々だし子供の年齢によってずっとつきっきりで子供と遊ぶ家庭もあれば自立してあまり家族の会話がない家庭もあるが、絶対に比較せず自分を迎え入れてくれたことに感謝して自らコミュニケーションを図ることが大切である。そうすれば必ず自分にとってかけがえのない経験となり、ホストファミリーとの別れにはまた来たいと思えるほどの研修になるし、行かないという選択肢はない研修である。